

全国漁業信用基金協会 青森支所

① 青森県の紹介

青森県は本州の最北端にあり、人口は約123万人、東は太平洋、西は日本海、北は津軽海峡に面し、懐に陸奥湾を抱き、南には秋田県にまたがる世界遺産白神山地、十和田八幡平国立公園をはじめ奥羽山脈の北端である八甲田山などの自然環境に恵まれており、西側の津軽地方と東側の南部地方では異なる気候や文化、風土となっております。

津軽地方は特別豪雪地帯に指定されています

が、春は「弘前さくらまつり」、夏の「青森ねぶた」、「弘前ねぶた」、「五所川原立佞武多」、などが有名です。

南部地方での冬は奥羽山脈から乾燥した寒風が吹き下ろし晴天の日が多く、春を告げる祭り「えんぶり」やユネスコ無形

文化遺産に登録された夏の「八戸三社大祭」などが有名です。

本県の産業は、全国有数の農業産出県であり、リンゴ、ナガイモ、ニンニクが全国一の生産量となっております。

また、県内では縄文時代の遺跡が多く、三内丸山遺跡（青森市）やニツ森貝塚、是川遺跡（八戸市）などで住居跡や土器および土偶が発見されております。



青森りんご



青森ねぶた祭



八戸三社大祭



三内丸山遺跡

◀写真提供：青森県観光情報サイト「アプティネット」▶

② 青森県の水産業

青森県は、日本海、津軽海峡、太平洋と中央には大型の内湾である陸奥湾を抱えており、海岸線が約797キロメートルあり、日本海では対馬暖流が北上し、その一部は津軽海峡に入って津軽暖流となり、太平洋を南下しています。

太平洋の沖合では、この津軽暖流と北からの親潮（寒流）、南の黒潮からの流れがぶつかり合い、プランクトンがたくさん発生し、多くの魚が集

まる豊かな漁場がつくられます。

暖流に乗って北上してくる魚にはスルメイカ、マグロ、ブリ、マサバなどがあり、寒流に乗って南下してくる魚にはサケ、マダラ、ホッケなどがあります。

また、周囲を下北半島、夏泊半島、津軽半島に囲まれ、大きなシケが少ない陸奥湾では、ホタテ貝の養殖が盛んで、全国有数のホタテ貝の生産地となっております。

しかし、近年の不漁等により、県内の水揚金額はピーク時1千億円を超えていたものが、令和元年度実績では417億円となっており、内訳はホタテ養殖が135億円、イカ類が102億円、マグロが25億円などとなっております。



ホタテ貝の水揚

大間のマグロ
(200kg超)



◀写真提供：JF青森県漁連▶

3 青森支所の概要

- 住所：青森市安方一丁目1番32号
- 電話番号：017-723-2714
- 担当理事：奈良岡修一
- 担当監事：清藤 進
- 会員数：463会員
- 出資総額：2,415,550千円
- 保証引受：172件 915,118千円
- 保証残高：860件 4,282,843千円(令和2年3月31日現在)
- 役職員数：8名



4 青森支所の今後の取り組み

当支所は、保証制度の安定・維持発展を目指し、令和2年10月1日をもって「全国漁業信用基金協会」との合併を果たし、青森支所として本県の水産業の発展に尽力いたす覚悟であります。

本県水産業を取り巻く環境は、漁場資源の劣化、漁撈コストの高騰、漁業従事者の高齢化等に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響により引き続き厳しいものと思われ、このような中で、当協会の業務においても、会員が必要とする資金の融通を円滑にし、漁業者の経営並びに生活の維持安定を持続的に図るため、積極的に取

り組んで参る所存であり、特に、設備投資促進に係る国の事業である、浜の担い手漁船リース事業や競争力強化型機器等導入事業、並びに無保証人型事業等においては、積極かつ効果的に活用するとともに、従来から実施している本県独自の沿岸漁業推進関連資金並びに令和2年度から新たに対応した新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急対策沿岸漁業推進関連資金の漁業者支援型資金についても、弾力的に取り組む等、これまで以上に地域に密着し、地域の実態を見据えた事業展開を目指します。